

Ethernet Board

PCI バス対応 1000Mbps

Gigabit イーサネットボード

LD-1000/T

パッケージ内容を確認する	P6
製品の保証とユーザ登録	P7 ~ P8
本製品について	P9 ~ P13
各部の名称とはたらき	P14
コンピュータ本体に取り付ける	P15 ~ P16
WindowsXP でのセットアップ	P17 ~ P18
WindowsMe でのセットアップ	P19 ~ P21
Windows2000 でのセットアップ	P22 ~ P24
Windows98 でのセットアップ	P25 ~ P29
ドライバのアンインストール	P30 ~ P34
ネットワークの設定について	P35 ~ P46
アダプタのプロパティについて	P47 ~ P49
電源の管理について	P50 ~ P53
付録 1 こんなときは	P54 ~ P59
付録 2 仕様	P60

User's Manual

ご注意

- 本製品の仕様および価格は、製品の改良等により予告なしに変更する場合があります。
- このマニュアルの著作権は、エレコム株式会社が所有しています。
- このマニュアルの内容の一部または全部を無断で複製 / 転載することを禁止させていただきます。
- このマニュアルの内容に関しては、製品の改良のため予告なしに変更する場合があります。
- このマニュアルの内容に関しましては、万全を期しておりますが、万一ご不審な点がございましたら、弊社ラニード・サポートセンターまでご連絡ください。
- 本製品のうち、戦略物資または役務に該当するものの輸出にあたっては、外国為替法に基づく輸出または役務取引許可が必要です。
- 本製品は日本国内での使用を前提に製造されています。日本国外での使用による結果について弊社は一切の責任を負いません。また、本製品について海外での保守、サポートはおこなっておりません。
- Microsoft、Windows は米国 Microsoft Corporation の登録商標です。そのほか、このマニュアルに掲載されている商品名 / 社名などは、一般に各社の商標ならびに登録商標です。本文中における®および™は省略させていただきました。

PCI バス対応 1000Mbps
Gigabit イーサネットボード

LD-1000/T

User's Manual ユーザーズマニュアル

はじめに

この度は、弊社ラニード製品 PCI バス対応 1000Mbps Gigabit イーサネットボード "LD-1000/T" をご購入いただき誠にありがとうございます。このマニュアルには、"LD-1000/T" をコンピュータに導入するにあたっての手順が説明されています。また、お客様が安全に "LD-1000/T" を扱っていただくための注意事項が記載されています。コンピュータ本体への取り付け作業を始める前に、必ずこのマニュアルをお読みになり、安全に導入作業をおこなって製品を使用するようにしてください。

このマニュアルは、製品の導入後も大切に保管しておいてください。

●このマニュアルで使われている記号について

記 号	意 味
	作業上および操作上で特に注意していただきたいことを説明しています。この注意事項を守らないと、けがや故障、火災などの原因になることがあります。注意してください。
	説明の補足事項や知っておくと便利なことを説明しています。

安全にお使いいただくために

けがや故障、火災などを防ぐために、ここで説明している注意事項を必ずお読みください。

 警告	この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などによる死亡や大けがなど人身事故の原因になります。
 注意	この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり、他の機器に損害を与えたりすることがあります。

警告

- 

本製品の取り付け、取りはずしのときは、必ずコンピュータ本体と周辺機器の電源を切り、電源プラグを AC コンセントから抜いて、作業をおこなってください。
電源プラグを抜かずに作業をすると火災や感電、故障の原因になります。
- 

小さな子供のいるそばで、取り付け取りはずしの作業をおこなわないでください。また、子供のそばに工具や部品を置かないようにしてください。
けがや感電をしたり、部品を飲み込んだりする危険性があります。
- 

本製品の取り付け、取りはずしのときは、必ずコンピュータ本体および周辺機器メーカーの注意事項に従ってください。
- 

本製品の分解、改造、修理をご自分でおこなわないでください。火災や感電、故障の原因になります。また、故障時の保証の対象外となります。
- 

本製品を取り付けたコンピュータ本体から煙やへんな臭いがしたときは、直ちに電源を切り、AC コンセントから電源プラグを抜いてください。そのあと、ご購入店などにご連絡ください。そのまま使用すると、火災や感電、故障の原因になります。



本製品を取り付けたコンピュータ本体に、水などの液体や異物が入った場合は、直ちに電源を切り、AC コンセントから電源プラグを抜いてください。そのあと、ご購入店などにご連絡ください。

そのまま使用すると、火災や感電、故障の原因になります。



本製品および本製品を取り付けたコンピュータ本体を、水を使う場所や湿気の多いところで使用しないでください。

火災や感電、故障の原因になります。



注意



コンピュータ本体のカバーや本製品の取り付け、取りはずしのときは慎重に作業をおこなってください。

強引な着脱は、機器の故障や、けがの原因になります。



本製品の取り付け、取りはずしのときは、本製品に触れる前に金属性のもの(スチールデスク、ドアのノブなど)に手を触れて、静電気を除去してから作業をおこなってください。

静電気は本製品の破損の原因になります。



本製品および本製品を取り付けたコンピュータ本体を次のようなところで使用しないでください。

- ・高温または多湿なところ、結露を起こすようなところ
- ・直射日光のあたるところ
- ・平坦でないところ、土台が安定していないところ、振動の発生するところ
- ・静電気の発生するところ、火気の周辺



長期間、本製品を取り付けたコンピュータ本体を使用しないときは、電源プラグを抜いておいてください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

導入手順フロー

本製品を使用するまでの手順の流れを示します。

1 パッケージの内容を確認します。
(6 ページ)

2 ユーザ登録をします。
(7 ページ)

3 本製品を取り付けます。
(15 ページ)

4 Windows のプラグ&プレイ機能により、本製品を自動的に認識します。
本製品のドライバをインストールします。

WindowsXP :	17 ページ
WindowsMe :	19 ページ
Windows2000 :	22 ページ
Windows98 :	25 ページ

5 必要に応じてプロトコルやサービスを追加します。

もくじ

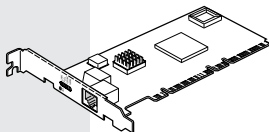
安全にお使いいただくために	2
導入手順フロー	4
もくじ	5
1 パッケージ内容を確認する	6
2 製品の保証とユーザ登録	7
製品の保証とサービス	7
ユーザサポートについて	8
3 本製品について	9
Gigabit Ethernet について	9
1000BASE-T へ移行するための導入例	11
本製品の特長	12
動作環境	13
4 各部の名称とはたらき	14
5 コンピュータ本体に取り付ける	15
6 WindowsXP でのセットアップ	17
7 WindowsMe でのセットアップ	19
8 Windows2000 でのセットアップ	22
9 Windows98 でのセットアップ	25
10 ドライバのアンインストール	30
WindowsXP でのアンインストール	30
WindowsMe/98SE/98 でのアンインストール	31
Windows2000 でのアンインストール	33
11 ネットワークの設定について	35
WindowsXP のネットワーク設定例	35
WindowsMe/98SE/98 でのピア・ツー・ピア環境の設定例	38
Windows2000 のネットワーク設定例	40
12 アダプタのプロパティについて	47
プロパティを表示する	47
設定項目の詳細	48
13 電源の管理について	50
WindowsXP で電源を管理する	50
WindowsMe/98SE/98 で電源を管理する	51
Windows2000 で電源を管理する	53
付録 1 こんなときは	54
Laneed サポートセンターへ連絡する前に	59
付録 2 仕様	60

1 パッケージ内容を確認する

本製品のパッケージには、次のものが入っています。作業を始める前に、すべてが揃っているかを確認してください。なお、梱包には万全を期しておりますが、万一不足品、破損品などがありましたら、すぐにお買い上げの販売店または弊社ラニード・サポートセンターまでご連絡ください。

●イーサネットボード

LD-1000/T 1枚



●ドライバディスク

3.5 インチフロッピーディスク 1枚



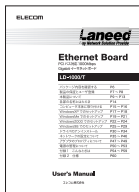
●ユーザ登録カード

はがき 1枚



●ユーザズマニュアル

1冊



●保証書



2 製品の保証とユーザ登録

製品の保証とサービス

本製品は、保証書が付いています。内容をお確かめの上、大切に保管してください。ユーザサポートについては8ページをご覧ください。

■保証期間

保証期間はお買い上げの日より1年間です。保証期間を過ぎたの修理は有料になります。詳細については保証書をご覧ください。保証期間中のサービスについてのご相談は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

■保証範囲

次のような場合は、弊社は保証の責任を負いかねますので、ご注意ください。

- ・ 弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障
- ・ 本製品をお使いになって生じたデータの消失、または破損
- ・ 本製品をお使いになって生じたいかなる結果および、直接的、間接的なシステム、機器およびその他の異常

■修理の依頼

保証期間中に故障した場合には、故障した製品に保証書および修理依頼書(故障状況を記入したもの)を添えてご連絡ください。修理品のお問い合わせについては、**エレコム修理センター**までお問い合わせください。

修理品ご送付先

- ・ 住所 〒192-0904 東京都八王子市子安町 3-5-2
エレコム修理センター

なお、上記住所は修理品受付のみになります。

修理品についてのお問い合わせは、下記の連絡先をお願いします。

エレコム修理センター（お問い合わせ窓口）

- ・ 電話番号 0426-31-0271 ・ FAX番号 0426-31-0272
- ・ 受付時間 月曜日～金曜日 9:00～12:00 13:00～17:00
(夏期・年末年始特定休業日、祝祭日は除く)

ユーザサポートについて

ユーザサポートは、ユーザ登録されているユーザの方を対象におこなっているサービスです。ユーザ登録されていない場合は、ユーザサポートを受けることができません。ユーザ登録は、ホームページ上でのオンライン登録とユーザ登録カードを送付する方法があります。

■ホームページからのオンライン登録

ユーザ登録は、ホームページからオンライン登録できます。次のURL アドレスにアクセスし、必要事項を入力して登録してください。登録が完了すると、登録完了の電子メールが送信されます。なお、オンライン登録されますと、ユーザ登録カードを返送していただく必要はありません。登録された方には、電子メールで新製品情報、サポート情報をお届けします。

エレコム ホームページアドレス
<http://www.elecom.co.jp/>

■Laneed サポートセンター

本製品をお使いになっているときに、何らかのトラブルが起きたときや、操作方法や使いかたがわからなくなったときには、Laneed サポートセンターにご連絡ください。

・電話番号 03-3444-5571 ・FAX 番号 03-3444-8205

・受付時間 月曜日～金曜日 9:00～12:00 13:00～18:00

(夏期・年末年始特定休業日、祝祭日は除く)

※ FAX による受信は、24 時間受け付けています。

■FAX 情報サービス

エレコム製品に関する最新情報を 24 時間いつでも FAX でお届けします。お近くの下記サービス情報 BOX センターにお電話をおかけください。ガイダンスにしたがって取り出したい BOX 番号をご指示ください。

東京 03-3940-6000 / 大阪 06-6455-6000 / 名古屋 052-453-6000
福岡 092-482-6000 / 札幌 011-210-6000 / 仙台 022-268-6000
広島 082-223-6000

メインメニュー BOX 番号

5 5 9 9 0 0

※ 在庫・納期・価格などに関するお問い合わせは、各営業拠点へお願いいたします。

3 本製品について

本製品の特長や動作環境などを説明します。

Gigabit Ethernet について

Gigabit Ethernet とは

Gigabit Ethernet(ギガビット・イーサネット)は、伝送速度が Fast Ethernet の 10 倍にあたる 1000Mbps の高速 LAN 規格です。高速 LAN 規格には多くの規格がありますが、Gigabit Ethernet の最大の特長は、10Mbps Ethernet および Fast Ethernet (100Mbps)によって構築された従来のネットワーク資産やネットワークの管理ノウハウを継承しながら、より高速なネットワークシステムへ段階的にアップグレードできることです。これは、10Mbps Ethernet 環境から Fast Ethernet 環境へ段階的にアップグレードできたのと同じです。つまり、Gigabit Ethernet なら Fast Ethernet からのアップグレードも、バックボーンなどの主要部分から段階的に導入できるメリットがあります。

Gigabit Ethernet の規格と種類

Gigabit Ethernet は、従来の Ethernet と同じ CSMA/CD プロトコル、フレーム形式、フレームサイズが使用可能なため、基本的な仕様は変わりません。この基本仕様が変わらないことが 10/100Mbps の Ethernet 環境と併用できる理由です。

Gigabit Ethernet は、IEEE802.3z の光ファイバーケーブルまたは同軸ケーブルを使用する規格と、IEEE802.3ab のツイストペアのメタルケーブルを使用する規格の 2 つに分けることができます。

■ Gigabit Ethernet の規格の種類

IEEE802.3ab 規格	1000BASE-T	エンハンスド・カテゴリ 5 やカテゴリ 6 の LAN ケーブルの 4 対 8 芯のケーブルをすべて使用して伝送します。すでに敷設された UTP や STP ケーブルを利用できます。 本製品はこの規格を採用しています。
IEEE802.3z 規格	1000BASE-SX	単波長(850nm)、マルチモード光ファイバを使用します。伝送距離は 500m (コア径 50 μ m の場合※)です。
	1000BASE-LX	長波長(1300nm)、シングルモード / マルチモード光ファイバを使用します。伝送距離は 5km(シングルモードコア径 9 μ m の場合)です。伝送距離が長いメリットがあります。
	1000BASE-CX	2 芯平衡型同軸ケーブルを使用します。伝送距離が最大 25m のため、おもに同一室内の Gigabit 機器を接続するのに使用します。

※ ケーブル仕様によっては、伝送距離が 550m のケーブルもあります。

1000BASE-T とは

本製品が採用している伝送方式「1000BASE-T」とは、エンハンスド・カテゴリ 5 やカテゴリ 6 対応の UTP や STP ケーブルを使用する規格で、100m の伝送距離があります。光ファイバケーブルを使用する 1000BASE-SX の伝送距離と比べて短くなっていますが、UTP ケーブルは光ファイバケーブルと比べて取り扱いが簡単であり、両端の機器を 1000BASE-T 対応の機器に入れ替えるだけの手軽さで、Gigabit Ethernet を実現できます。

100BASE-TX では、UTP ケーブルの、4 対 8 芯のケーブルのうち 2 対 4 芯しか使用せず、残りの 2 対 4 芯は使用していませんが、1000BASE-T では、4 対 8 芯すべてを使用します。

また全二重転送の場合も、1 対を送信に、もう 1 対を受信に使用している 100BASE-TX に比べ、1000BASE-T では 4 対すべてで送受信をしています。

●カテゴリ 6 ケーブル

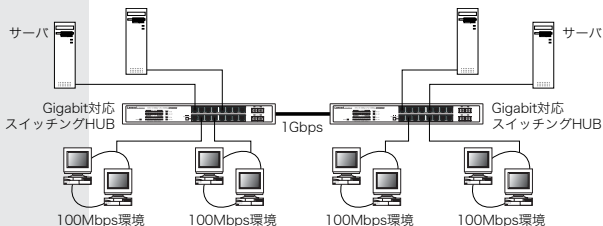
エンハンスド・カテゴリ 5 のケーブルに比べ、カテゴリ 6 のケーブルは、信号減衰量が小さく、近端漏話減衰量が大きくなっています。カテゴリ 6 のケーブルはこのため、1000BASE-T で使用することに適しています。

1000BASE-T へ移行するための導入例

Gigabit Ethernet の導入初期の例として、主に負荷がかかりやすいサーバやスイッチング HUB 周辺の帯域幅の確保が考えられます。

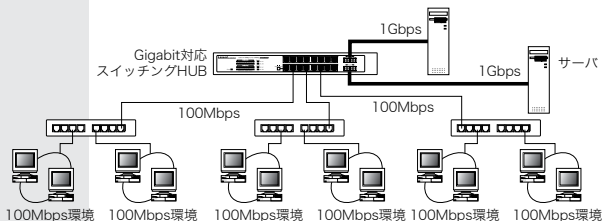
●スイッチング HUB 間の強化

Fast Ethernet のスイッチング HUB どうしを Gigabit Ethernet でつなぐことにより、帯域幅の広いスイッチング間リンクを実現します。



●スイッチング HUB とサーバ間の強化

導入の最も簡単な例は、10/100Mbps スwitchング HUB とサーバ間を Gigabit Ethernet にアップグレードすることです。トラフィックの最も集中しやすいサーバへの伝送路が 1000Mbps になることで、高速なデータのやり取りを確保できます。



本製品の特長

●高速！1000BASE-T 対応の Gigabit イーサネットアダプタ

100BASE-TX(100Mbps) の 10 倍、1Gbps の伝送速度を誇る 1000BASE-T 対応の Gigabit イーサネットアダプタです。Ethernet(10Mbps) および Fast Ethernet(100Mbps) の上位規格にあたり、従来のイーサネット環境から簡単にアップグレードできます。1000BASE-T 規格を採用したスイッチング HUB とサーバを接続したり、スイッチング HUB のバックボーンとして使用することで、トラフィック量の多い経路からイーサネット環境を改善することができます。10Mbps 環境から 10/100Mbps 環境へ移行するときと同じような感覚で、簡単に Gigabit Ethernet を導入することができます。

●IEEE802.1Q 対応で、VLAN に対応したスイッチング HUB との相性バッチリ

従来では、VLAN に対応したスイッチング HUB を使用している場合で、IEEE802.1Q に準拠していないネットワークカードを接続するときは、VLAN 情報のタグなしフレームを送出するように設定する必要がありました。本製品は IEEE802.1Q に対応しているため、簡単に VLAN に対応したスイッチング HUB に導入できます。

●WindowsXP に対応、Windows のプラグ&プレイに対応

最新の OS である WindowsXP にも対応していますので、最新の環境でも安心して導入できます。また、WindowsXP や Windows2000 はもちろん、Windows98/98SE/Me のプラグ&プレイにも対応していますので、わずらわしいハードウェア設定の必要なしにコンピュータにセットアップすることができます。PCI バスに取り付けたあとで Windows を起動すれば、あとはドライバをインストールするだけの簡単セットアップです。

● 32bit/64bit PCI バスに対応

現在の PCI バス標準のバス幅である 32bit はもちろん、バス幅 64bit の PCI バスにも対応します。64bit の PCI バスでは、本製品をより高いパフォーマンスで使用することができます。

● FIFO バッファを内蔵し、効率のよい処理と転送を実現

本製品は 96KB の FIFO バッファを内蔵しています。FIFO バッファにより先に入ったデータから先に処理されますので、効率のよい処理がおこなわれ、転送速度を向上することができます。

● Full Duplex 対応で高速データ転送

本製品は Full Duplex(全二重モード)に対応しています。Full Duplex 環境は、データの送信と受信を同時におこなえますので効率のよい伝送路を持ったネットワーク環境が実現できます。さらに、CSMA/CD プロトコルの特性であるコリジョンを回避することにより、パフォーマンスの低下を防ぎます。

動作環境

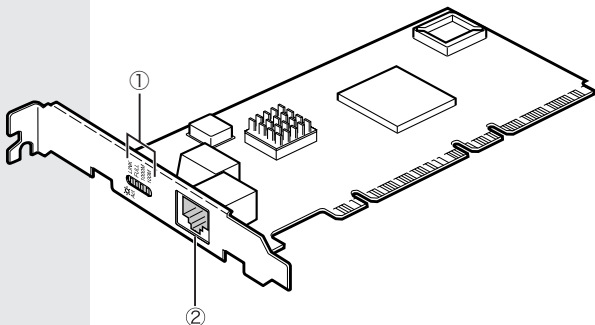
本製品は次の動作環境に対応しています。

対応機種	IBM PC および PC/AT 互換機(DOS/V マシン)、NEC PC98-NX で下記の条件を満たす機種(自作機は除く) ・ PCI バスの空きスロットがあること ・ IRQ の空きがあること
対応 OS	WindowsXP、WindowsMe、Windows2000、Windows98、WindowsNT4.0

※ ホームページにて、本製品に対する最新の対応 OS およびドライバのご案内をしています。

4 各部の名称とはたらき

LD-1000/T の各部の名称とはたらきを説明します。



①	LED インジ ケータ	LINK	HUB など外部との接続が正常な場合に緑色に点灯します。データの送受信時には緑色に点滅します。
		FULL	Full Duplex で接続されていると緑色に点灯します。
		1000M	伝送速度が 1000Mbps で接続されていると緑色に点灯します。
		100M	伝送速度が 100Mbps で接続されていると緑色に点灯します。
②	ステーションポート	カテゴリ 6 やエンハンスト・カテゴリ 5 対応の LAN ケーブルを接続します。	

5 コンピュータ本体に取り付ける

本製品をコンピュータ本体の PCI バスに取り付けます。コンピュータ本体の種類によっては、カバーの開けかたや PCI バスへの本製品の取り付けかたが異なります。ご使用になるコンピュータ本体のマニュアルに記載されている PCI バス用ボードの取り付け方法の説明も参考にしてください。

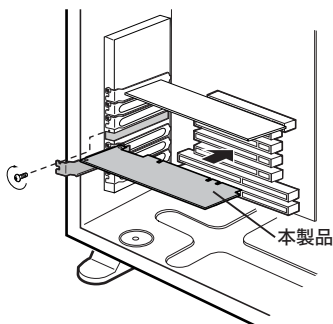


作業を始める前に、コンピュータ本体および周辺機器の電源プラグを AC コンセントから必ず抜いてください。本製品の取り付け時に人体が内部回路に触れる場合があります。電源プラグを差し込んだままにしておくと、感電の原因になります。

- 1** コンピュータ本体および周辺機器の電源を OFF の状態にし、電源プラグが AC コンセントから抜いてあることを確認します。
- 2** コンピュータ本体のカバーをはずします。
カバーのはずしかたについては、コンピュータ本体のマニュアルを参照してください。
- 3** 本製品を取り付ける PCI バススロットを決め、そのスロットカバーをはずします。
取り付ける PCI バススロットは 32bit および 64bit どちらのタイプでも構いません。
本製品を取り付けることができるだけのスペースがあるか、差し込んだ場合にマザーボード上のコネクタ類に接触しないか確認してください。
- 4** スロットカバーをはずした PCI バススロットに、本製品をしっかりと差し込み固定します。
ゆがみのないように、ゆっくりとスロットの奥まで均一に差し込みます。



本製品を湾曲させた状態で無理に固定したり、マザーボード上のコネクタ類に接触した状態で本製品を固定すると、本製品やコンピュータ本体が故障する恐れがあります。



5 ネットワークケーブルを本製品に接続します。

6 コンピュータ本体のカバーを元に戻し、電源プラグを AC コンセントに差し込みます。

- ・ WindowsXP をお使いの場合
..... 「WindowsXP でのセットアップ」 17 ページ
- ・ WindowsMe をお使いの場合
..... 「WindowsMe でのセットアップ」 19 ページ
- ・ Windows2000 をお使いの場合
..... 「Windows2000 でのセットアップ」 22 ページ
- ・ Windows98SE/98 をお使いの場合
..... 「Windows98 でのセットアップ」 25 ページ

6 WindowsXP でのセットアップ

本製品は、WindowsXP のプラグ & プレイ機能に対応しています。本製品を取り付けて、WindowsXP を起動すると自動的にセットアップが開始されます。

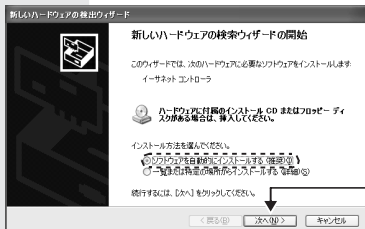
WindowsMe や Windows2000、Windows98 でセットアップする場合は、次のページを参照してください。

- ・ WindowsMe をお使いの場合
「WindowsMe でのセットアップ」19 ページ
- ・ Windows2000 をお使いの場合
「Windows2000 でのセットアップ」22 ページ
- ・ Windows98/98SE をお使いの場合
「Windows98/98SE でのセットアップ」25 ページ



WindowsNT4.0 のドライバのインストール方法については、本製品の付属のドライバディスク内にある、winnt.txt を参照してください。

- 1 「5 コンピュータ本体に取り付ける」(15 ページ)を参照して、本製品をコンピュータ本体の PCI バスに取り付けます。
- 2 コンピュータ本体の電源を ON にして Windows を起動し、Administrator 権限を持つユーザでログオンします。WindowsXP が起動すると、〈新しいハードウェアの検出ウィザード〉画面が表示されます。
- 3 コンピュータ本体のフロッピーディスクドライブに、本製品付属のフロッピーディスクを挿入します。
- 4 [ソフトウェアを自動的にインストールする(推奨)]ラジオボタンを選択して、**次へ(N) >** をクリックします。

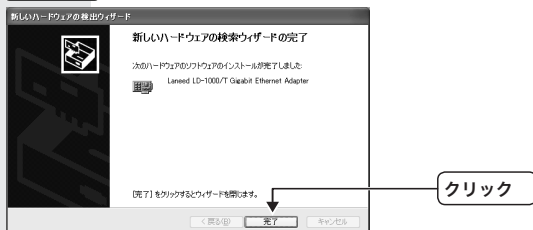


クリック

- 5** 〈ハードウェアのインストール〉画面が表示されたら、 をクリックします。
インストールを続行します。



- 6**  をクリックします。



- 7** コンピュータのフロッピーディスクドライブから、本製品のフロッピーディスクを取り出します。

これで、WindowsXP のセットアップが完了しました。このあとは、使用するネットワーク環境に合わせて、ネットワークの設定を追加したり変更してください。また、35 ページから WindowsXP のネットワーク設定例について説明しています。参考にしてください。

7 WindowsMe でのセットアップ

本製品は、WindowsMe のプラグ & プレイ機能に対応しています。本製品を取り付けて、WindowsMe を起動すると自動的にセットアップが開始されます。

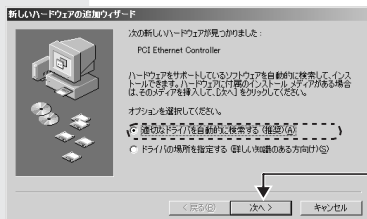
WindowsXP や Windows2000、Windows98 でセットアップする場合は、次のページを参照してください。

- ・ WindowsXP をお使いの場合
「WindowsXP でのセットアップ」17 ページ
- ・ Windows2000 をお使いの場合
「Windows2000 でのセットアップ」22 ページ
- ・ Windows98/98SE をお使いの場合
「Windows98/98SE でのセットアップ」25 ページ



WindowsNT4.0 のドライバのインストール方法については、本製品の付属のドライバディスク内にある、winnt.txt を参照してください。

- 1 「5 コンピュータ本体に取り付ける」(15 ページ)を参照して、本製品をコンピュータ本体の PCI バスに取り付けます。
- 2 コンピュータ本体の電源を ON にします。
Windows が起動し、〈新しいハードウェアの追加ウィザード〉画面が表示されます。
- 3 コンピュータ本体のフロッピーディスクドライブに、本製品付属のフロッピーディスクを挿入します。
- 4 [適切なドライバを自動的に検索する(推奨)]ラジオボタンを選択して、**次へ >** をクリックします。

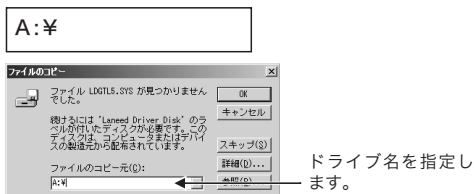


クリック



お使いの環境によっては、ファイルが見つかりませんといった内容の画面が表示されることがあります。この場合は、「ファイルのコピー元」の入力欄にフロッピーディスクドライブ名を指定します。

(例) フロッピーディスクドライブが A ドライブの場合
(小文字でも可)



すでにインストールされているファイルのほうが新しい場合は、そのファイルを上書きするか確認のメッセージが表示されます。このような場合は、日付の新しいファイルをそのまま使用するようにしてください。

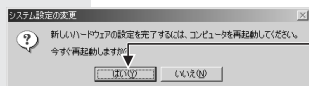
5 **完了** をクリックします。



6 コンピュータのフロッピーディスクドライブから、本製品付属のフロッピーディスクを取り出します。

- 7** お使いの環境によっては、再起動を促すメッセージが表示されます。
 をクリックします。

Windows が再起動します。



クリック

- 8** 再起動すると、ネットワークへのログオン画面が表示されます。
 をクリックします。



クリック

ユーザー名を入力します。

パスワードを入力します。

- ・[ユーザー名]は必ず入力します。
- ・必要であれば[パスワード]を入力します。パスワードは忘れないようにしてください。

これで、WindowsMe のセットアップが完了しました。このあとは、使用するネットワーク環境に合わせて、ネットワークの設定を追加したり変更してください。また、38 ページから WindowsMe/98SE/98 でのピア・ツー・ピア環境の設定例について説明しています。参考にしてください。

8 Windows2000 でのセットアップ

本製品は、Windows2000 のプラグ & プレイ機能に対応しています。本製品を取り付けて、Windows2000 を起動すると自動的にセットアップが開始されます。

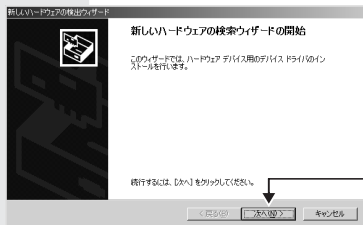
Windows98 や WindowsMe、WindowsXP でセットアップする場合は、次のページを参照してください。

- ・ WindowsXP をお使いの場合
「WindowsXP でのセットアップ」17 ページ
- ・ WindowsMe をお使いの場合
「WindowsMe でのセットアップ」19 ページ
- ・ Windows98/98SE をお使いの場合
「Windows98/98SE でのセットアップ」25 ページ



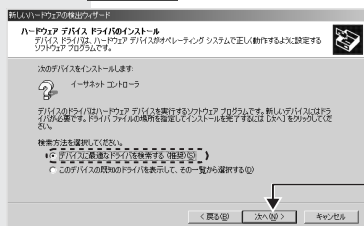
WindowsNT4.0 のドライバのインストール方法については、本製品の付属のドライバディスク内にある、winnt.txt を参照してください。

- 1 「5 コンピュータ本体に取り付ける」(15 ページ)を参照して、本製品をコンピュータ本体の PCI バスに取り付けます。
- 2 コンピュータ本体の電源を ON にして Windows を起動し、Administrator 権限を持つユーザでログオンします。
(新しいハードウェアの追加ウィザード)画面が表示されます。
- 3 「次へ(N) >」をクリックします。
検索方法を選択する画面が表示されます。



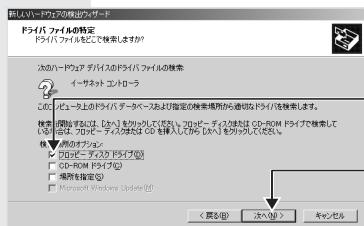
4 コンピュータ本体のフロッピーディスクドライブに、本製品付属のフロッピーディスクを挿入します。

5 [デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)]ラジオボタンを選択して、**次へ(N) >** をクリックします。



クリック

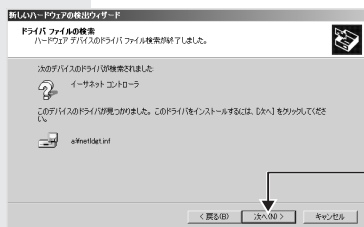
6 [フロッピーディスクドライブ]チェックボックスをチェックして、**次へ(N) >** をクリックします。



[フロッピーディスクドライブ]チェックボックスをチェックします。

クリック

7 **次へ(N) >** をクリックします。
インストールを開始します。



クリック

8 「デジタル署名が見つかりませんでした」と表示された場合は、

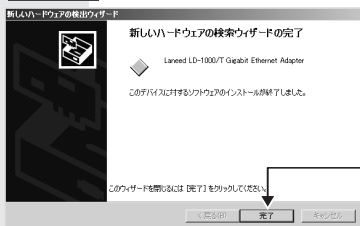
 をクリックします。

インストールを続行します。



クリック

9 完了 をクリックします。



クリック

10 コンピュータのフロッピーディスクドライブから、本製品付属のフロッピーディスクを取り出します。

これで、Windows2000 のセットアップが完了しました。このあとは、使用するネットワーク環境に合わせて、ネットワークの設定を追加したり変更してください。また、40 ページから Windows2000 のネットワーク設定例について説明しています。参考にしてください。

9 Windows98 でのセットアップ

本製品は、Windows98 のプラグ & プレイ機能に対応しています。本製品を取り付けて、Windows98 を起動すると自動的にセットアップが開始されます。

ここでは、Windows98SE の画面で説明していますが、Windows98 をお使いの場合でも同様の手順でセットアップが完了します。

WindowsXP や WindowsMe、Windows2000 でセットアップする場合は、次のページを参照してください。

- ・ WindowsXP をお使いの場合
「WindowsXP でのセットアップ」17 ページ
- ・ WindowsMe をお使いの場合
「WindowsMe でのセットアップ」19 ページ
- ・ Windows2000 をお使いの場合
「Windows2000 でのセットアップ」22 ページ



WindowsNT4.0 のドライバのインストール方法については、本製品の付属のドライバディスク内にある、winnt.txt を参照してください。

1 「5 コンピュータ本体に取り付ける」(15 ページ)を参照して、本製品をコンピュータ本体の PCI バスに取り付けます。

2 コンピュータ本体の電源を ON にします。

Windows が起動し、〈新しいハードウェアの追加ウィザード〉画面が表示されます。

3  をクリックします。

検索方法を選択する画面が表示されます。





コンピュータ名、ワークグループ名の入力を促されたときは

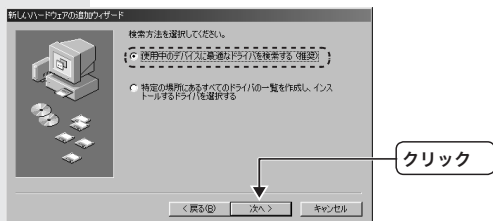
- ① 【コンピュータ名】の入力を促すメッセージが表示されます。 **OK** をクリックします。
- ② 【識別情報】タブから【コンピュータ名】と【ワークグループ名】を入力します。



コンピュータ名	インストール中のコンピュータに与える名称を設定します。一般的には、個人単位で使うコンピュータならユーザの名前、部署単位で扱うコンピュータなら部署名などを入力します。
ワークグループ名	インストール中のコンピュータが接続されているネットワークのグループ名を設定します。同一ネットワーク上のコンピュータのワークグループ名はすべて同じになります。

- ③ **OK** をクリックします。

- 4** [使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)]ラジオボタンを選択して、**次へ>**をクリックします。
ドライバの場所を選択する画面が表示されます。

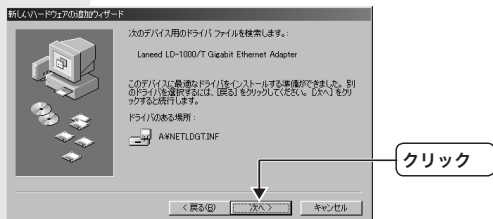


- 5** コンピュータ本体のフロッピーディスクドライブに、本製品付属のフロッピーディスクを挿入します。

- 6** 「フロッピーディスクドライブ」のみチェックし、**次へ>**をクリックします。
ドライバを検索する画面が表示されます。



- 7** **次へ>**をクリックします。
インストールを開始します。





すでにインストールされているファイルのほうが新しい場合は、そのファイルを上書きするか確認のメッセージが表示されます。このような場合は、日付の新しいファイルをそのまま使用するようになしてください。

8 お使いの環境によっては、Windows98 の CD-ROM を挿入するようにメッセージが表示されます。

Windows98 のバージョンによって、表示されるメッセージは異なります。表示される CD-ROM を挿入し、**OK** をクリックしてください。



Windows98 の CD-ROM が入ったドライブを指定するための画面が表示されたときは、「ファイルのコピー元」の入力欄に CD-ROM を挿入したドライブ名を指定し、ドライブ名のあとに「WIN98」フォルダを指定します。



ドライブ名のあとに「WIN98」フォルダを指定します。

(例) CD-ROM ドライブが E ドライブの場合(小文字でも可)

e:¥win98

すでにインストールされているファイルのほうが新しい場合は、そのファイルを上書きするか確認のメッセージが表示されます。このような場合は、日付の新しいファイルをそのまま使用するようになしてください。

9 **完了** をクリックします。

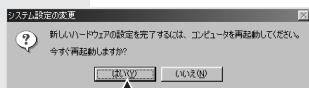


クリック

10 コンピュータのフロッピーディスクドライブから、本製品付属のフロッピーディスクを取り出します。

11 お使いの環境によっては、再起動を促すメッセージが表示されます。**はい(Y)** をクリックします。

Windows が再起動します。



クリック

これで、Windows98 のセットアップが完了しました。このあとは、使用するネットワーク環境に合わせて、ネットワークの設定を追加したり変更してください。また、38 ページから WindowsMe/98SE/98 でのピア・ツー・ピア環境の設定例について説明しています。参考にしてください。

10ドライバのアンインストール

各 OS ごとに本製品のドライバのアンインストールについて説明します。

WindowsMe/2000/98SE/98 の場合は、ドライバを完全にアンインストールするには、ドライバを削除したあとで、ドライバ情報を削除する必要があります。

●アンインストール作業をはじめる前に

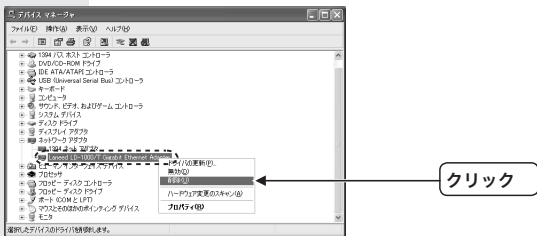
次の手順で、すべてのファイルと拡張子が表示できるようにしておいてください(WindowsXP の場合は必要ありません)。

- 1 WindowsMe/2000/98SE/98 の場合は、[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックします。
〈マイコンピュータ〉画面が表示されます。
- 2 メニューから[ツール]→[フォルダオプション]をクリックします。
〈フォルダオプション〉画面が表示されます。
- 3 【表示】タブで、「登録されているファイルの拡張子は表示しない」のチェックを外し、「すべてのファイルとフォルダを表示する」をチェックします。
すべてのファイルと拡張子が表示できるようになりました。

WindowsXP でのアンインストール

- 1 スタートメニューから「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
〈システムのプロパティ〉画面が表示されます。
- 2 【ハードウェア】タブで、 をクリックします。
〈デバイスマネージャ〉画面が表示されます。
- 3 "ネットワークアダプタ"をダブルクリックして表示される "Laneed LD-1000/T Gigabit Ethernet Adapter" を選択して右クリックし、「削除」をクリックします。

〈デバイスの削除の確認〉画面が表示されます。



- 4** **OK** をクリックします。
ドライバが削除されます。

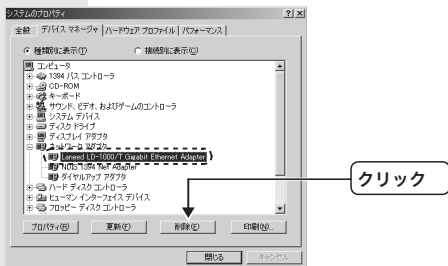


これでドライバのアンインストールは完了です。

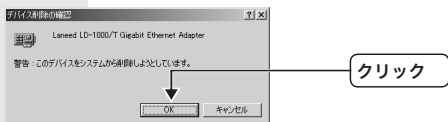
WindowsMe/98SE/98 でのアンインストール

- 1** [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を選択します。
コントロールパネルが表示されます。
- 2** [コントロールパネル]の[システム]アイコンをダブルクリックします。
〈システムのプロパティ〉画面が表示されます。
- 3** 【デバイスマネージャ】タブで、"ネットワークアダプタ"をダブルクリックし、"Lanead LD-1000/T Gigabit Ethernet Adapter"を選択し、**削除(R)** をクリックします。

〈デバイス削除の確認〉画面が表示されます。



- 4** **OK** をクリックします。
ドライバが削除されます。



- 5** 再起動を促すメッセージが表示されます。 **はい(Y)** をクリックします。

- 6** ドライバ情報 "ELECOMNETLDGT.INF" を削除します。
ファイルの場所：C:\Windows\Inf\Other\ELECOMNETLDGT.INF
(Windows を C ドライブにインストールしている場合)



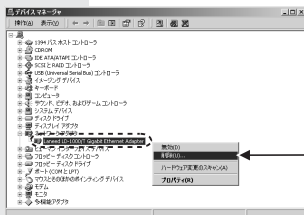
ドライバ情報を削除するときに、他のファイルを誤って削除したり、手を加えないでください。重大なトラブルの原因になります。

これでドライバのアンインストールは完了です。

Windows2000 でのアンインストール

Windows2000 には Administrator 権限でログオンしておきます。

- 1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を選択します。
コントロールパネルが表示されます。
- 2 [コントロールパネル]の[システム]アイコンをダブルクリックします。
〈システムのプロパティ〉画面が表示されます。
- 3 【ハードウェア】タブで、 **デバイス マネージャ(D)...** をクリックします。
〈デバイスマネージャ〉画面が表示されます。
- 4 "ネットワークアダプタ"をダブルクリックし、"Lanecd LD-1000/T Gigabit Ethernet Adapter" を選択して右クリックし、「削除」をクリックします。
〈デバイスの削除の確認〉画面が表示されます。



クリック

- 5 **OK** をクリックします。



クリック

ドライバが削除されます。

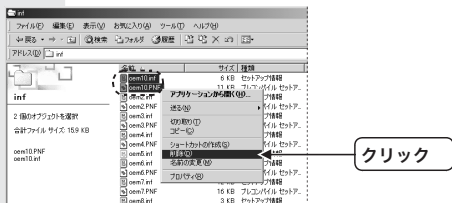
確認メッセージが表示されたときは、 **OK** をクリックします。

6 ドライバ情報を削除します。

- ① [スタート]→[検索]→[ファイルやフォルダ]を選択します。
- ② 検索条件の「含まれる文字列」に "NETLDGT.INF"、「探す場所」に "C:¥winnt¥inf" を入力して、**検索開始(S)** をクリックします。
(Windows2000 を C ドライブにインストールしている場合)
検索結果に "oem * .inf" が表示されます。(" *" は数字です。
この数字はお使いのパソコンの環境によって異なります。)



- ③ 手順②で見つかった "oem * .inf" と同じファイル名で拡張子が .PNF の "oem * .PNF" の 2 つのファイルを "C:¥winnt¥inf" の中から探して削除します。



ドライバ情報を削除するときに、他のファイルを誤って削除したり、手を加えないでください。重大なトラブルの原因になります。

これでドライバのアンインストールは完了です。

11 ネットワークの設定について

各 OS ごとに簡単なネットワークの設定例について説明します。
お使いの OS、使用するネットワーク環境に合わせて、ネットワークの設定を追加したり変更してください。

WindowsXP のネットワーク設定例

- 1 [スタート]→[コントロールパネル]を選択します。
コントロールパネルが表示されます。
- 2 [ネットワークとインターネット接続]をクリックします。
〈ネットワークとインターネット接続〉画面が表示されます。
- 3 [ネットワーク接続]をクリックします。
〈ネットワーク接続〉画面が表示されます。
- 4 [ローカルエリア接続]アイコンを右クリックし、メニューから[プロパティ]を選択します。
〈ローカルエリア接続のプロパティ〉画面が表示されます。



[ローカルエリア接続]の名称は、アダプタをインストールした環境によって変わります。〈ローカルエリア接続のプロパティ〉画面に表示されるアダプタ名から、ネットワークを設定するアダプタであるかを確認してください。

- 5 「この接続は次の項目を使用します」欄に、「Microsoft ネットワーク用クライアント」が表示されているか確認します。
インストールされていても、チェックマークがついていなければネットワークを使えません。名前の先頭にあるチェックボックスをチェックしてください。



ここをチェック

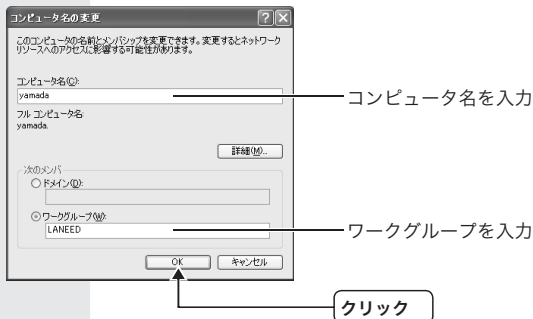
表示されていないときは、「Microsoft ネットワーク用クライアント」をインストールします。

- ① 〈ローカルエリア接続のプロパティ〉画面で、 **インストール(N)...** をクリックします。
〈ネットワークコンポーネントの種類の選択〉画面が表示されます。
- ② [クライアント]を選択し、 **追加(A)...** をクリックします。
ネットワーククライアントの選択画面が表示されます。
- ③ 「Microsoft ネットワーク用クライアント」を選択し、 **OK** をクリックします。
「この接続は次の項目を使用します」欄に「Microsoft ネットワーク用クライアント」が追加されます。

6 スタートメニューから[マイコンピュータ]を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

7 【コンピュータ名】タブで、 **変更(C)...** をクリックします。
〈コンピュータ名の変更〉画面が表示されます。

8 コンピュータ名とワークグループ名を設定し、 **OK** をクリックします。
表示されているコンピュータ名とワークグループ名から変更する必要がある場合は、 **キャンセル** をクリックします。



- 9** 名称を変更すると確認メッセージ(コンピュータ名とワークグループ名の両方を変更した場合は2回)が表示されます。 をクリックします。

- 10** 〈システムのプロパティ〉画面で、 をクリックします。

- 11** 再起動を促すメッセージが表示されます。 をクリックします。

再起動すると、今回設定した内容が有効になります。

これで基本的なネットワーク設定は完了です。この他、同じ要領で実際の環境に合わせた設定をおこなってください。



ファイルやプリンタを共有するには、ネットワークが有効になってから次の手順で共有設定をおこなってください。

- ① 共有したいファイルのあるフォルダやプリンタのアイコンを右クリックし、メニューを表示します。
- ② メニューから[共有とセキュリティ]を選択し、必要な事項を設定します。

WindowsMe/98SE/98 でのピア・ツー・ピア環境の設定例

ここでは、WindowsMe/98SE/98 のネットワークでよく利用されるピア・ツー・ピア環境の設定例を説明します。実際の画面上の表示されるネットワークコンポーネント(サービス、プロトコルなど)は、ご使用の環境により異なります。

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を選択します。
コントロールパネルが表示されます。

2 [ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。
〈ネットワーク〉画面が表示されます。

3 〈ネットワーク〉画面の【ネットワークの設定】タブにある
追加(A)... をクリックします。
〈ネットワークコンポーネントの選択〉画面が表示されます。



ご使用の環境により表示項目は異なります。

4 [プロトコル]を選択し、**追加(A)...** をクリックします。
〈ネットワークプロトコルの選択〉画面が表示されます。

5 [製造元]で "Microsoft" を選択し、[ネットワークプロトコル]で
"NetBEUI" を選択します。続いて **OK** をクリックします。
[現在のネットワークコンポーネント]に "NetBEUI" が追加されます。



追加されたプロトコル

- 6** 手順**3**と同様に、〈ネットワーク〉画面で **追加(A)...** をクリックします。

〈ネットワークコンポーネントの選択〉画面が表示されます。

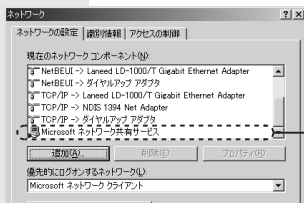
- 7** [サービス]を選択し、 **追加(A)...** をクリックします。

〈ネットワークサービスの選択〉画面が表示されます。

- 8** [モデル]で "Microsoft ネットワーク共有サービス" を選択します。

続いて **OK** をクリックします。

[現在のネットワークコンポーネント]に "Microsoft ネットワーク共有サービス" が追加されます。



追加されたサービス

- 9** 「優先的にログオンするネットワーク」が「Microsoft ネットワーク クライアント」になっているか確認します。

異なる場合は変更してください。



「優先的にログオンするネットワーク」が「Microsoft ネットワーククライアント」になっているか確認します。
異なる場合は、変更してください。

- 10** **ファイルとプリンタの共有(E)...** をクリックし、開いた画面で "ファイルを共有 ..." "プリンタを共有 ..." を両方ともチェックし、 **OK** をクリックします。

- 11** 〈ネットワーク〉画面の【識別情報】タブをクリックします。

- 12** 内容を確認し、変更が必要な場合は[コンピュータ名]と[ワークグループ]を入力し、 をクリックします。

項目の意味については、26 ページの「Memo」を参照してください。ディスクの挿入を促すメッセージが表示されたときは、ディスクを挿入します。詳細については、28 ページの手順 **8** を参照してください。

- 13** 再起動を促すメッセージが表示されます。 をクリックします。

再起動すると、今回設定した内容が有効になります。



ファイルやプリンタを共有するには、ネットワークが有効になってから次の手順で共有設定をおこなってください。

- ① 共有したいファイルのあるフォルダやプリンタのアイコンを右クリックし、メニューを表示します。
- ② メニューから[共有]を選択し、必要な事項を設定します。

Windows2000 のネットワーク設定例

Windows2000 には Administrator 権限でログオンしておきます。

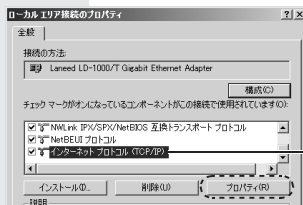
- 1** [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を選択します。
コントロールパネルが表示されます。
- 2** [ネットワークとダイアルアップ接続]アイコンをダブルクリックします。
〈ネットワークとダイアルアップ接続〉画面が表示されます。
- 3** [ローカルエリア接続]を右クリックし、メニューから[プロパティ]を選択します。
〈ローカルエリア接続のプロパティ〉画面が表示されます。



「ローカルエリア接続」の名称は、アダプタをインストールした環境によって変わります。〈ローカルエリア接続のプロパティ〉画面に表示されるアダプタ名から、ネットワークを設定するアダプタであるかを確認してください。

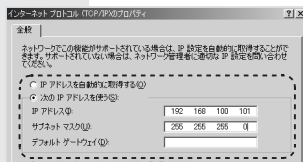
4 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し、プロパティ(R)をクリックします。

〈インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ〉画面が表示されます。



インターネットプロトコル (TCP/IP) を選択

5 IP アドレスに関する設定をします。



- ・DHCP サーバ(機能)を使用している場合は、「IP アドレスを自動的に取得する」を選択します。
- ・DHCP サーバ(機能)を使用していない場合は、「次の IP アドレスを使う」を選択し、IP アドレスとサブネットマスクを入力します。「デフォルトゲートウェイ」と「DNS サーバ」はルータなどを使用して LAN を超える場合に使用する項目ですので、ここでは入力していません。

6 IP アドレスの設定が終われば、詳細設定(V)...をクリックします。 〈TCP/IP 詳細設定〉画面が表示されます。

- 7** 【WINS】タブで、「NetBIOS over TCP/IP を有効にする」ラジオボタンを選択して、**OK** をクリックします。
 〈インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ〉画面に戻ります。



- 8** 〈インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ〉画面→〈ローカルエリア接続のプロパティ〉画面で、それぞれ **OK** をクリックして画面を閉じます。さらに〈ネットワークとダイヤルアップ接続〉画面を閉じます。

- 9** [コントロールパネル]の[システム]アイコンをダブルクリックします。
 〈システムのプロパティ〉画面が表示されます。

- 10** 【ネットワーク ID】タブで、**プロパティ(R)** をクリックします。
 〈識別の変更〉画面が表示されます。

- 11** コンピュータ名とワークグループ名を設定し、**OK** をクリックします。
 表示されているコンピュータ名とワークグループ名から変更する必要がない場合は、**キャンセル** をクリックします。



12 名称を変更すると確認メッセージ(コンピュータ名とワークグループ名の両方を変更した場合は2回)が表示されます。 **OK** をクリックします。

13 <システムのプロパティ>画面で、 **OK** をクリックします。

14 再起動を促すメッセージが表示されます。 **はい(Y)** をクリックします。

再起動すると、今回設定した内容が有効になります。

これで基本的なネットワーク設定は完了です。この他、同じ要領で実際の環境に合わせた設定をおこなってください。

Windows2000 のユーザ登録例

Windows2000 をインストールしたコンピュータにアクセスできるようにするには、あらかじめ、アクセスを許可するユーザを登録しておく必要があります。

ここでは、ユーザの登録例を説明します。

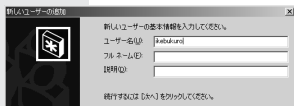
1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を選択します。
コントロールパネルが表示されます。

2 [ユーザーとパスワード]アイコンをダブルクリックします。
<ユーザーとパスワード>画面が表示されます。

3 **追加(D)...** をクリックします。
<新しいユーザーの追加>画面が表示されます。

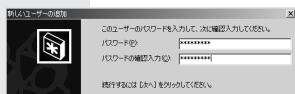
4 アクセスを許可するユーザの名称を入力し、 **次へ(N) >** をクリックします。

ユーザ名は各コンピュータのコントロールパネルにある「ネットワーク」の「識別情報」(Windows98/98SE/Me の場合)などで設定している名称です。



5 パスワードを入力し、**OK**をクリックします。

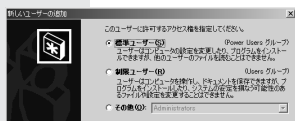
Windows98/98SE/Me の Microsoft ネットワークログオンでパスワードを入力しなかった場合は、入力の必要はありません。



6 登録したユーザに許可するグループを指定し、**完了**をクリックします。

〈ユーザーとパスワード〉画面に戻ります。

「このコンピュータのユーザー」の一覧に、追加したユーザが登録されます。



7 〈ユーザーとパスワード〉画面で **OK** をクリックします。

これで登録したユーザがアクセスを許可されるようになります。

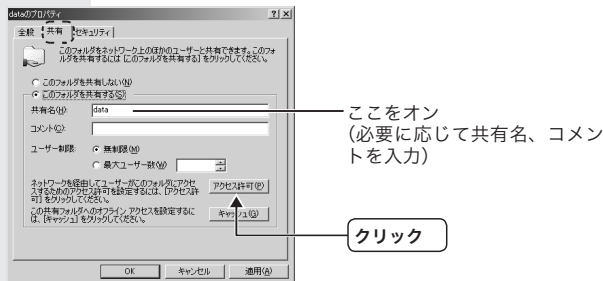
Windows2000 の共有フォルダの設定例

Windows2000 上のフォルダやドライブにアクセスできるように共有設定をおこないます。Windows2000 は、アクセス権の設定が Windows98/98SE/Me に比べて詳細になっています。また、NTFS フォーマットでドライブをフォーマットしている場合は、さらにセキュリティ設定が必要になります。

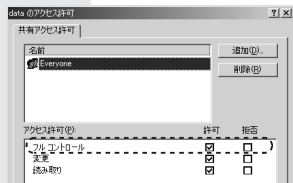
7 共有したいフォルダを右クリックし、メニューから[プロパティ]を選択します。

フォルダのプロパティが表示されます。

- 2** 【共有】タブで「このフォルダを共有する」ラジオボタンを選択し、**アクセス許可(P)** をクリックします。
必要に応じて共有名、コメントを入力します。



- 3** 「フルコントロール」に設定されていることを確認し、**OK** をクリックします。
NTFS フォーマットでは、【セキュリティ】タブでアクセス権を設定します。
FAT フォーマットの場合は、この画面で **追加(D)...** をクリックし、アクセスを許可するユーザまたはユーザグループを設定します。



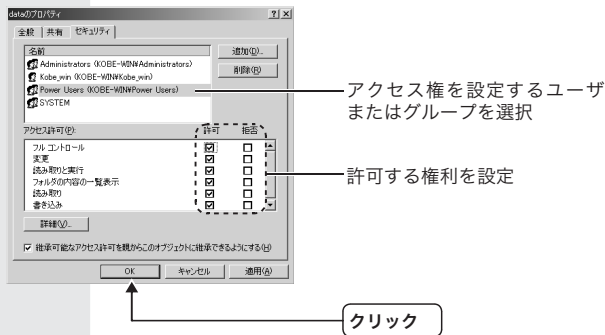
- 4** 【セキュリティ】タブを選択し、**追加(D)...** をクリックします。
(ユーザー、コンピュータ、またはグループの選択)画面が表示されます。

- 5** 一覧から登録するユーザまたはグループを選択し、**追加(D)...** をクリックします。
 「名前」にユーザまたはグループ名が登録されます。
 【セキュリティ】タブに戻ります。



グループとして追加すると、グループに参加しているユーザは全て同一の条件でこのフォルダを参照できます。

- 6** 【セキュリティ】タブの「名前」の一覧でアクセス権を設定するユーザまたはグループを選択し、「アクセス許可」の一覧で許可する内容を設定します。設定が終われば、**OK** をクリックします。



これで登録したユーザの共有フォルダへのアクセス権が設定できました。

12アダプタのプロパティについて

アダプタのプロパティについて説明します。初期値は一般的に最適な状態に設定されていますので、通常は変更しないでください。

プロパティを表示する

アダプタのプロパティを表示します。

● WindowsXP の場合

- 1 スタートメニューから「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
〈システムのプロパティ〉画面が表示されます。
- 2 【ハードウェア】タブを選択して、 をクリックします。
〈デバイスマネージャ〉画面が表示されます。
- 3 "ネットワークアダプタ"をダブルクリックすると表示される "Laneed LD-1000/T Gigabit Ethernet Adapter" をダブルクリックします。
〈Laneed LD-1000/T Gigabit Ethernet Adapter のプロパティ〉画面が表示されます。
- 4 【詳細設定】タブを選択します。
設定画面が表示されます。

● WindowsMe/98SE/98 の場合

- 1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を選択します。
コントロールパネルが表示されます。
- 2 [ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。
〈ネットワーク〉画面が表示されます。
- 3 〈ネットワーク〉画面の【ネットワークの設定】タブから、"Laneed LD-1000/T Gigabit Ethernet Adapter" を選択し、 をクリックします。
- 4 【詳細設定】タブを選択します。
設定画面が表示されます。

● Windows2000 の場合

- 1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を選択します。
コントロールパネルが表示されます。
- 2 [システム]アイコンをダブルクリックします。
〈システムのプロパティ〉画面が表示されます。
- 3 【ハードウェア】タブを選択して、 デバイス マネージャ(D)... をクリックします。
〈デバイスマネージャ〉画面が表示されます。
- 4 "ネットワークアダプタ"をダブルクリックすると表示される
"Laneed LD-1000/T Gigabit Ethernet Adapter"をダブルクリックします。
〈Laneed LD-1000/T Gigabit Ethernet Adapter のプロパティ〉画面が表示されます。
- 5 【詳細設定】タブを選択します。
設定画面が表示されます。

設定項目の詳細

プロパティの項目を選択すると、右側の内容が項目にあわせて切り替わりますので、設定を変更します。



項 目	説 明	初期値
802.1Q/1P VLAN tagging	上位レイヤーにパケットを送信するとき、VLAN 用 ID 情報を付加するか設定します。	Disabled
Connection Type	伝送速度を固定で設定します。	Auto Sense
Flow Control	フローコントロールを有効にするか設定します。	Enabled
GVRP	VLAN メンバーシップ情報の分散と登録が行なえる GVRP (VLAN 登録プロトコル) を有効にするか設定します。	Enabled
Inter-Frame Spacing	ネットワーク上の Ethernet パケットコリジョンを補うためのパフォーマンスを設定します。	4352 bit times
Jumbo Frame Support	一度に送れるパケットの上限値を設定します。	Disabled
Network Address	本製品の MAC アドレスをソフトウェア上で強制的に変更したい場合に、変更したい MAC アドレスを入力します。MAC アドレスの変更は、十分に知識のあるネットワーク管理者の指示で行ってください。通常は絶対に変更しないでください。	存在しない
Receive Buffers	受信バッファ数を指定します。	64
TCP/IP Checksum Offload	データの送受信時にチェックサムオフローディングを有効にするか設定します。	Disabled
Transmit Buffers	送信バッファ数を指定します。	20
Tx Threshold	送信パケットのしきい値を設定します。	256
VLAN ID	0 から 4095 (12bit) までの VLAN ID を入力します。 範囲外の数値を入力しても機能しません。	6

13 電源の管理について

お使いの OS とコンピュータ本体が ACPI をサポートしている場合、本製品からの電源の管理が可能になります。ACPI の対応については、コンピュータ本体に付属しているマニュアルを参照してください。

WindowsXP で電源を管理する

- 1 スタートメニューから「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
〈システムのプロパティ〉画面が表示されます。
- 2 【ハードウェア】タブを選択して、 をクリックします。
〈デバイス マネージャ〉画面が表示されます。
- 3 "ネットワークアダプタ" をダブルクリックすると表示される "Laneed LD-1000/T Gigabit Ethernet Adapter" をダブルクリックします。
〈Laneed LD-1000/T Gigabit Ethernet Adapter のプロパティ〉画面が表示されます。
- 4 【電源の管理】タブを選択します。
〈電源の管理〉画面が表示されます。
- 5 有効にしたい項目のチェックボックスをチェックします。



- 6  をクリックします。
設定が有効になります。

Windows Me/98SE/98 で電源を管理する

- 1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を選択します。
コントロールパネルが表示されます。
- 2 [コントロールパネル]の[システム]アイコンをダブルクリックします。
〈システムのプロパティ〉画面が表示されます。
- 3 【デバイスマネージャ】タブで、"ネットワークアダプタ"をダブルクリックし、"Laneed LD-1000/T Gigabit Ethernet Adapter"を選択し、**プロパティ(P)**をクリックします。
〈Laneed LD-1000/T Gigabit Ethernet Adapter〉画面が表示されます。
- 4 【電源の管理】タブを選択します。
〈電源の管理〉画面が表示されます。
- 5 有効にしたい項目のチェックボックスをチェックします。





Windows98SE をお使いの場合でネットワークプロトコルに NetBEUI のみを使用したネットワークを構築している場合、スタンバイの際に Microsoft ネットワーククライアントなどのモジュールが正常にスタンバイ処理されないため、レジューム後ネットワークに接続できなくなります。TCP/IP など、ほかのネットワークプロトコルを追加して使用してください。

これは、本製品の不良ではなく、Windows98SE によるものです。詳しくは Microsoft 社のサポート技術情報をご覧ください。

● サポート技術情報

<http://www.microsoft.com/japan/support/>

● W98SE : スタンバイ / レジューム後ネットワークに接続できなくなる

<http://www.microsoft.com/japan/support/kb/articles/J050/6/51.htm>

6 をクリックします。

設定項目が有効になります。

Windows2000 で電源を管理する

- 1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を選択します。
コントロールパネルが表示されます。
- 2 [システム]アイコンをクリックします。
〈システムのプロパティ〉画面が表示されます。
- 3 【ハードウェア】タブを選択して、 デバイス マネージャ(D)... をクリックします。
〈デバイスマネージャ〉画面が表示されます。
- 4 "ネットワークアダプタ" をダブルクリックすると表示される
"Laneed LD-1000/T Gigabit Ethernet Adapter " をダブルクリックします。
〈Laneed LD-1000/T Gigabit Ethernet Adapter のプロパティ〉画面が表示されます。
- 5 【電源の管理】タブを選択します。
〈電源の管理〉画面が表示されます。
- 6 有効にしたい項目のチェックボックスをチェックします。



- 7 OK をクリックします。
設定が有効になります。

付録 1 こんなときは

- 本製品をコンピュータに取り付けたところ、コンピュータ本体が全く起動しなくなった。

現在のご使用中のコンピュータですでに使用している IRQ、I/O ポートアドレスと本製品の IRQ が競合しているか、コンピュータに本製品を使用するために必要な IRQ の空きがないものと考えられます。コンピュータ本体のマニュアルなどを参考にして、IRQ、I/O ポートアドレスの空きを確保してください。

- 接続している HUB などの LINK ランプが点灯しない。

- ・ HUB などにケーブルが正しく接続されているかを確認してください。HUB に接続している場合、ストレートケーブルで接続していますか？
- ・ コンピュータ本体どうしを直結している場合、クロスケーブルで接続していますか？

- Windows98 でプラグ&プレイでセットアップしたが、本製品を正常に認識できない。

お使いのコンピュータで IRQ が競合しているか、IRQ の空きがないことが原因と考えられます。

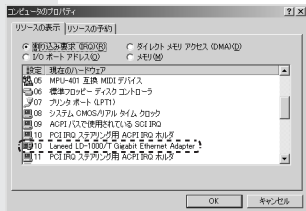
IRQ に空きがないと、本製品をプラグ&プレイの状態でご使用いただくことはできません。コンピュータ本体のマニュアルなどを読んで、IRQ の使用状況を確認してください。

- ・ WindowsXP 上での使用可能な IRQ の確認方法

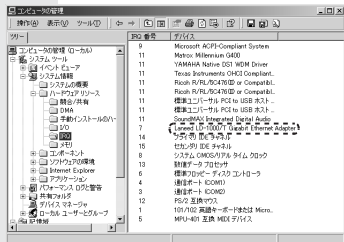
メニューバーの[スタート]→[マイコンピュータ]を右クリック→[プロパティ]を選択でシステムのプロパティ画面を表示し、→[ハードウェア]タブ→[デバイスマネージャー]ボタンをクリックしてデバイスマネージャ画面を表示します。次に[表示]→[リソース(種類別)]または[リソース(接続別)]を選択します。一覧の「割り込み要求(IRQ)」をダブルクリックすると IRQ 一覧を表示します。この一覧から IRQ を確認します。



- WindowsMe/98SE/98 上での使用可能な IRQ の確認方法
メニューバーの[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[システム]→[デバイスマネージャ]を表示し、「コンピュータ」を選択して **プロパティ** をクリックします。一覧から IRQ を確認します。



- Windows2000 上での使用可能な IRQ の確認方法
メニューバーの[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[管理ツール]→[コンピュータの管理]起動し、[システムツール]→[システム情報]→[ハードウェアリソース]→[IRQ]を選択します。一覧から IRQ を確認します。



●本製品の設定は正常に終了したが、ネットワークコンピュータを開くと「ネットワークを参照できません。」というエラーが表示される。

- ① 正常にネットワークの設定ができていない可能性があります。
もう一度、本製品の設定を確認し、OS 側が本製品を正常に認識しているか調べてください。
- ・ WindowsXP 上で本製品が正常に動作しているかを確認する方法
メニューバーの[スタート]→[マイコンピュータ]を右クリック→[プロパティ]を選択でシステムのプロパティ画面を表示し、→[ハードウェア]タブ→[デバイスマネージャー]ボタンをクリックしてデバイスマネージャ画面を表示します。[その他のデバイス]の項目があれば、ダブルクリックし、ドライバ名を確認してください。もし本製品のドライバが組み込まれていたら削除して再起動してください。
- ・ WindowsMe/98SE/98 上で本製品が正常に動作しているかを確認する方法
メニューバーの[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[システム]→[デバイスマネージャ]で[その他のデバイス]の項目があれば、ダブルクリックし、ドライバ名を確認してください。もし本製品のドライバが組み込まれていたら削除して再起動してください。
- ・ Windows2000 上で本製品が正常に動作しているかを確認する方法
メニューバーの[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[システム]→[ハードウェア]→[デバイスマネージャ]で[その他のデバイス]の項目があれば、ダブルクリックし、ドライバ名を確認してください。もし本製品のドライバが組み込まれていたら削除して再起動してください。
- ② ケーブル、HUB などを確認してください。
(現在、正常に動作しているケーブルがあれば交換してみてください。HUB の接続ポートを変更してください。)
- ③ 可能であれば、本製品を取り付けている PCI バススロットを変更してください。

●本製品の設定は正常に終了したが、ネットワークを参照できない。もしくは、使用しているコンピュータしか表示されない。

- ① ネットワーク接続に必要なプロトコル、クライアント、サービスなどの設定が、使用するネットワーク環境に合った設定になっているかを確認してください。
- ② [スタート]→[検索]の[ほかのコンピュータ]を起動し、ターゲットのコンピュータのコンピュータ名を入力し検索してみてください。

●本製品を設定すると、フロッピーディスクまたは CD-ROM を要求される。

ネットワークの設定に必要なファイルは、弊社提供のドライバの他に Windows 側で提供されているファイルも含まれています。このような場合は、表示されるメッセージに従って、Windows の CD-ROM ディスクを CD-ROM ドライブにセットし、そのドライブのパスを指定してください。

例① WindowsXP/2000 の場合
 〈CD-ROM のドライブ名〉: ¥i386

例② WindowsMe/98SE/98 の場合
 〈CD-ROM のドライブ名〉: ¥WIN9X または WIN98

●WindowsMe/98SE/98 でネットワークに接続したが、ファイルやプリンタの共有ができない。

ネットワークには接続できて相手側へ入れるようになったが、相手側のドライブやプリンタの使用ができないときは次の点を確認してください。

- ① [ネットワークコンピュータ]を右クリックして、[プロパティ]→[ネットワーク構成の一覧]に「Microsoft ネットワーク共有サービス」が組み込まれているかを確認してください。
 組み込まれていない場合は[ファイルとプリンタの共有]のチェックボックスをクリックしてチェックし、 をクリックしてください。

- ②共有したいフォルダやプリンタに共有設定をおこなっているかを確認してください。共有の方法は次のようにしてください。
- ・共有したいフォルダやプリンタで右クリックをしてメニューを表示します。
- ・共有という項目を選択し、「共有しない」になっている設定を「共有する」に変更して  をクリックしてください。

●Windows98 で、「DHCP サーバーが見つかりません」と表示される。

このメッセージはエラー表示ではありません。使用しているネットワーク環境で「DHCP サーバ」が存在しない場合に表示されます。DHCP サーバとは、ネットワークプロトコルとして TCP/IP を使用する場合、各コンピュータに必要な IP アドレスを自動的に割り当てるサーバです(通常は WindowsNT サーバやルータが設定により、必要な IP アドレスを自動的に割り当てています)。

Windows98 環境のネットワークで TCP/IP を使用した場合の初期設定では「DHCP サーバ」を使用して、IP アドレスを割り当てるようになっています。使用しているネットワーク環境に DHCP サーバが存在しない場合や見つからない場合に、上記メッセージが表示されます。実際に DHCP サーバを設定していない場合は、このメッセージが表示されたとき、今後このメッセージを表示しないように[NO]をクリックしてください。また、TCP/IP の設定をおこなう場合は特別知識を必要とすることもあります。IP アドレスの設定がわからないときはシステム管理者に相談するか、TCP/IP のプロトコルを使用しないでネットワークを構築してください。ただし、TCP/IP を使用しない場合は、他のプロトコル (NetBEUI など)を追加してください。

●Windows98SE の場合、レジューム後ネットワークに接続できない。

Windows98SE をお使いの場合でネットワークプロトコルに NetBEUI のみを使用したネットワークを構築している場合、スタンバイの際に Microsoft ネットワーククライアントなどのモジュールが正常にスタンバイ処理されないため、レジューム後ネットワークに接続できなくなります。TCP/IP など、ほかのネットワークプロトコルを追加して使用してください。

これは、本製品の不良ではなく、Windows98SE によるものです。
詳しくは Microsoft 社のサポート技術情報をご覧ください。

● サポート技術情報

<http://www.microsoft.com/japan/support/>

● W98SE: スタンバイ / レジューム後ネットワークに接続できなくなる

<http://www.microsoft.com/japan/support/kb/articles/J050/6/51.htm>

以上の方法でも問題が解決しない場合は、Laneed サポートセンターへ連絡してください。

Laneed サポートセンターへ連絡する前に

Laneed サポートセンターにご連絡いただく際には、迅速にサポートができるように、次の内容を事前に調査・確認していただいた上でご連絡いただきますようお願いいたします。

ご連絡いただく際には、不具合の発生する端末もしくは HUB の前から連絡いただきますと、スムーズにサポートがおこなえます。

ネットワークの環境について確認します。

- ・ 使用している OS とバージョン
- ・ 使用しているネットワークアダプタの型番、設定内容、使用しているケーブルの種類、メーカー名、ネットワーク構成や、ネットワークに接続しているパソコンの台数

不具合の状況について確認します。

- ・ 本製品の LED インジケータ (LINK) や、接続しているネットワークアダプタのリンクランプの状態はどうなっていますか。

以上の内容を確認の上、弊社サポートセンターまでご連絡ください。

付録2仕様

商品名	1000Mbps PCI バス Gigabit イーサネットボード
製品型番	LD-1000/T
規 格	IEEE802.3、IEEE802.3u、IEEE802.3x、IEEE802.1Q、IEEE802.3ab
メディアタイプ	1000BASE-T
コネクタタイプ	RJ-45
伝送速度	1000Mbps、100Mbps、10Mbps
対応バス	PCIバス 2.1
LED	LINK (緑：リンクの確立、送受信時には点滅) FULL (緑：Full Duplex での接続) 1000M (緑：伝送速度が 1000Mbps で接続) 100M (緑：伝送速度が 100Mbps で接続)
適合規格	VCCI Class B に適合、 FCC Part15 Class B、CE マーキングにそれぞれ準拠
消費電力	3.3V/5V 1.2A 6W
環境条件	動作時：温度 0 ～ 50℃ 湿度 5 ～ 90% 保存時：温度 0 ～ 50℃ 湿度 5 ～ 90% (結露なきこと)
形状寸法	(W)165mm × (D)73mm
対応機種	IBM PCおよびPC/AT互換機(DOS/V)、NEC PC 98-NX シリーズで以下の条件を満たすもの(自作機および同等 のものは除く) ・ PCIバスを標準で装備し、IRQ の空きがあること
対応 OS	WindowsXP、WindowsMe、Windows2000、 Windows98、WindowsNT4.0
付属品	ドライバディスク 1 枚、ユーザズマニュアル、 ユーザ登録カード / 保証書

PCI バス対応 1000Mbps Gigabit イーサネットボード
LD-1000/T

User's Manual
発行 エレコム株式会社
2002 年 7 月 31 日 第 2 版

LD-1000/T

Laneed

ELECOM